

◆生育状況について

【JA管内 ふじ生育】

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/28	4/9	4/23	4/26	5/1
令和8年	3/28	4/5			
令和7年	3/26	4/9	4/22	4/25	5/1
令和6年	4/1	4/10	4/20	4/24	4/28

◆当面する重点事項について

1. 土壤乾燥する場合は、開花・結実を助けるため、定期的なかん水を実施する。
2. 腋芽花(2年枝)の花摘みを実施し、初期生育を助けると共に、隔年結果防止を図る。
特にシナノドルチェ、秋映、ふじは優先して実施する。
3. 人工受粉を徹底し、結実・品質確保を図る。なお、落花後に受粉専用品種のせん定を実施する。
4. 薬剤摘花を実施し、摘果作業の早期化、省力化を図る。
5. 腐らん病の早期発見、早期治療に努める。
6. せん定時に見落とししたうどんこ病の罹病枝は、感染拡大を防ぐため、見つけ次第剪除する。
7. 薬剤散布を適期に実施する。
8. 性フェロモン剤を適期に設置する。

◆早生・中生種追肥について（高密植・新しい化栽培を除く）

1. 施肥時期：4月下旬
2. 使用資材・施肥量：有機専科 2袋/10a当り
3. 留意事項
 - 1) 幼木・若木・強樹勢樹・高密植新しい化栽培は、施用しない。
 - 2) 有機専科に代えてノルチッソ1袋を使用してもよい。

◆樹勢衰弱樹対策・結実促進対策の葉面散布について

1. 散布時期：第3・4回薬剤散布に混用する。この場合、展着剤不要。
2. 使用葉面散布肥料
 - 1) 樹勢衰弱樹の場合：アミノメリット青500倍（水1000当り200g）
 - 2) 中庸な樹勢で、結実促進したい場合：アミノメリット黄（水1000当り200g）
3. 留意事項
 - 1) 必要に応じて、複数回実施する。
 - 2) 凍霜害により、結実確保が難しい場合は、使用しない。

◆高密植（新しい化）栽培の管理について

1. 摘花
 - 1) 植付1年目は、なり癖をつけるため1輪摘花（果）を行い、新梢の伸びが停まったら全摘果する。
 - 2) 2年目からは隔年結果防止と玉肥大促進のため、早めの1輪摘花（果）を行う。
 - 3) 新梢の伸びが良すぎる枝は、2年枝へも着果させ、新梢の伸びを抑える。
2. 誘引：フェザー（特に太い下枝）先端が下向きになるように誘引し、新梢の伸びを抑える。
3. 固定：主幹をしっかりと支柱で固定し、折れないように曲がらないようにする。
4. かん水：乾燥に弱い。土壤水分管理を徹底する。
5. 根切り：花が咲かなかった場合は樹勢が強くなるので、根切りを実施する。

◆腐らん病対策について（重要）

腐らん病の発生が目立っています。地域的に蔓延すると大きな被害になることが予想される。一丸となって対策を徹底し、腐らん病の増加を防ぐ。詳細は、りんご情報No.2参照。

有効な防除対策の一つである「樹皮の削り取り」動画が作成されている。動画を参考に実施する。Youtube「長野県」又は右記のQRコードを読みよりください。



◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期：開花直前（ふじが1～2輪開花した頃）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
ミギワ20フロアブル	4,000倍	25ml	前日	黒星病・うどんこ病
ロムダンフロアブル	3,000倍	33ml	前日	ハマキムシ類・ケムシ類

3. 散布上の留意事項
 - 1) キンモンホソガ・ギンモンハモグリガの発生が心配される場合は、ロムダンフロアブルに代えて、カスケード乳剤2,000倍（水1000ℓ当り50ml）を使用しても良い。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期：落花直後（中心花）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
㊦カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	黒星病・うどんこ病・赤星病・褐斑病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 第3・4回防除間隔は、10～12日間以内とし、開花中であっても実施する。
 - 2) クワコナカイガラムシ発生園は、アプロードフロアブル1,000倍（水1000ℓ当り100ml）を加用散布する。
 - 3) アブラムシ類発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍（水1000ℓ当り25g）を加用散布する。
 - 4) ハマキムシ類・ケムシ類の発生が多い場合は、バイオマックスDF2,000倍（水1000ℓ当り50g）又は、エコマスターBT1,000倍（水1000ℓ当り100g）を加用散布する。

◆第3・4回薬剤散布共通留意事項

1. ミツバチ、マメコバチ等訪花昆虫が活動する時期のため、記載の農薬以外は使用しない。
2. 黒星病は、ここから落花後までが重要防除時期になる。以後の感染拡大につながるため注意する。
3. 散布の際は、中心花の付け根（果実が肥大する所）に掛かるよう実施する。
4. 殺菌剤効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバー2,000倍（水1000ℓ当り50ml）を使用してもよい。

◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第4回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g

【カルシウム欠乏対策】

+

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットII	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆ふじの結実確保対策（人工受粉）について

人工受粉を行わないと結実不足による収量減、変形果等が増加し、商品性低下を招く。「所得の得られるりんご」栽培のため対策を実施し、所得向上を図る。

1. ふじの受粉樹として交雑和合性のある品種

	花粉発芽温度			花粉量	開花の早晚目安 (ふじとの差)
	10℃	15℃	20℃		
メイポール	×	×	○	—	-4日
王林	×	×	○	中	-3.5日
つがる	×	○	○	中	-1日
シナノスイート	—	—	—	—	-0.8日
紅玉	×	○	○	中	-0.2日
秋映	—	—	—	—	0日
祝	—	—	—	—	0.3日
シナドドルチェ	—	—	—	—	1.3日
シナノゴールド	○	○	○	多	1.7日

※花粉発芽温度：○印が各温度で50%以上の発芽率

※花粉量：—印は調査結果無し。 ※開花の早晚：樹勢により変化する。

2. 作業（一般的な内容は、果樹総合情報No.2参照）

1) 花粉

①開葯する場合は、採取する花の量10a当り1,000～1,500花が必要。採果かごいっぱいであれば、3,000～4,000花入る。

②交互受粉する場合は、不要。

2) 受粉のタイミング

①受精可能期間は開花後5日程度。結実率が高いのは、開花後3～4日以内のため、この時期重点的に実施する。

3. シナノスイート：弱樹勢樹では、早めにえき芽花の摘花をする。

◆薬劑摘花について

薬劑摘果により、省力化や翌年の花芽確保につながるため、有効に利用する。
なお、人工受粉など結実対策をする事を前提に実施する。

【石灰硫黄合剤】

1. 散布時期：中心花の満開2日後と、その散布の2日～3日後の2回散布。
開花が早い中心花の花弁が、たたくと1～2枚落ちる頃。花弁が多く落ちる頃では遅い。

1回目実際散布月日 月 日

2回目実際散布月日 月 日

2. 使用薬劑（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：300～4000以上

農薬名	使用倍率	調合量
石灰硫黄合剤	100倍	1kg

3. 散布上の留意事項

1) 高温時は、使用倍率120倍（水1000ℓ当り0.83kg）にし使用する。

【エコーキー】

1. 散布時期：頂芽満開日（頂芽の中心花が開花し、側花が7～8割開花した日又は、散布しようとする前日、頂芽側花が50%程度開花を目安にする）と、その散布2日～3日後（えき芽満開。えき芽の側花が7～8割開始した日）の2回散布する。

1回目実際散布月日 月 日

2回目実際散布月日 月 日

2. 使用薬劑（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：300～6000以上

農薬名	使用倍率	調合量
エコーキー	100倍	1kg

3. 散布上の留意事項

1) 高温時は、使用倍率150倍（水1000ℓ当り0.66kg）にし使用する。

【共通留意事項】

- 温暖無風な日中（午前9時以降～3時）に散布する。
- 柱頭にかかるよう実施する。スピードスプレーヤ利用の場合は、ファンを停止又は低回転にして、花弁が柱頭を包まないように配慮する。
- 極端な低温・高温、乾燥時、樹勢が特に弱い樹は、薬害の恐れがあるため（石灰硫黄合剤：サビ・エコーキー葉縁）散布しない。
- 凍霜害により、結実確保が難しい場合は、実施しない。
- 低温によりえき芽の開花が遅れる場合は、2回目の散布間隔を調整する。
- 散布後、花弁が褐変するが、害はない。